

黒帯コラム 4月

「時」

時をテーマに作品を作るアーティスト” jean-christophe noreman” と、パリで知り合い私が広島から来たと伝えると、飛び上がってよろこびました。

彼は、広島で平和と時を題材にした作品を残したいと以前から思っていたようです。

話の中で、彼はこう言いました。

「チャンスは、みな平等にあるが、たいていの人はその事に気付かない。気づいていても、つかみに行くか行かないかは、その人しただと…」

こうしたきっかけから、5月に彼は広島に来る事になりました。

仕事や趣味や日常生活においても、そのような場面で選択に迫られることを私も経験したことがあります。

写真に映る彼女はこういいます。

「文化があつて産業があるり、自分が何を残し、次になにを伝えるかだと…」

時間はとまることなく流れていき、生命の終わりは決まっていることから、日々自分がどうなりたい、どうしたいかを明確にしておく事が大切だと改めて感じました。

幼い頃からの話ですが、小学4年生の時にジャッキーチェーンをみてカッコイイと思い、同級生が空手を習っていた事もあり、空手をしたいと父にお願いしたが、巨人(長嶋)ファンの父は、野球なら習わせてくれました。

それから、24歳になりふとしたきっかけで、空手を習おうと行動に移し、幼いときからの思いを実現しました。

15年の間、空手をしてみたい思いがどこかにありながら、行動に移すまで15年かかりましたが時を経て今があります。

jean-christophe noreman

HP <http://jeanchristophenorman.blogspot.jp>

YouTube <https://www.youtube.com/watch?v=ZMm73zWzQsU>

鶴原 学

